



留学生のための 日本事情入門

A study of the theory about Japanese society

1冊でわかる最新日本の総合的紹介

【改訂版】

金津日出美・桂島宣弘

アジアにおける日本研究ゼミナール【著】

文理閣

【改訂版】

留学生のための

A study of the theory about Japanese society

日本事情入門

1冊でわかる最新日本の総合的紹介

金津日出美・桂島宣弘

アジアにおける日本研究ゼミナール[著]



文理閣

はじめに

本書の初版本が刊行されたのは、2005年4月のことである。日本への留学生が急増した時期にあたっており、その切実なニーズに応える「日本事情」のテクストとして初版本は刊行されたのであった。詳しくは次頁に掲載している「初版はじめに」を参照願いたいが、当時の3～4年生だった日本人学生と数多くの留学生が話し合いを行い、何度も推敲を重ねて作成されたのが本書初版本の最大の特質であった。

幸いなことに本書初版本は大変な好評を博し、多くの大学のテクストとして採用されるに至った。さらに韓国語版・中国語版も刊行され（韓国語版は2008年多楽園、中国語版は2018年大連理工大学出版社）、とりわけ韓国ではもっとも定評ある「日本事情」テクストの一冊となっている。著者としては大変名誉なことであると思っている。

もっとも、既に十余年を経たにも拘わらず、今もそのまま好評を博していることは、最新の「日本事情」テクストとしては問題があるのではないかという思いを募らせる事にもなった。とりわけ、この間に、日本では民主党への政権交替・自民党政権への復帰や、東日本大震災などの看過しえない出来事が起こった。また、改訂作業を行う過程で、格差の拡大、高齢社会の本格的到来など日本社会に深刻な変化が起こっていることにも気づかされた。今次の改訂本は、データを2017年にふさわしいものに更新したことに加え、こうした事情・事態を可能な限り反映させるように努めた。無論、生活・慣習・年中行事など、初版本と大きな変化のない内容もある。それらは基本的に改訂する必要がないと判断したことに加え、何よりも初版本が有していた学生・留学生の合作という特質を損なわないようにしたいという配慮も働いている。大方のご理解をいただければ幸いである。

なお、本書は高麗大学校で長い間教鞭を執った金津日出美が韓国・中国での大学事情も考慮して改訂をリードし、立命館大学の桂島宣弘が最終的な監修を行った。本書も、初版本同様に最良の「日本事情」テクストとして活用されるならば、著者としてこれに勝る喜びはない。

2017年1月2日

金津日出美・桂島宣弘

初版はじめに

本書は、日本に留学してきた海外の高校生・大学生を対象とした日本事情紹介授業のテキストとして編纂されたものであるが、巷間に出来ている類似書と大きく異なっているのは、日本で実際に生活・学習している現役大学生と現役留学生との交流に基づいて編纂された点である。したがって本書は、最初から最後まで、2004年現在の大学4回生（=4年生）が、主としてアジアにおける日本研究・日本理解の現実を調査・分析し、その上で現代日本の政治・経済・社会・文化・歴史・地理・宗教等について何を紹介すべきかを研究・精査し、さらに1年間かけて学生自身が原稿を書き、互いに何度も推敲し、この間に数回留学生とも原稿を交えた意見交換会を行い、幾度かの修正を加えてできあがったものである。一言でいえば、大学生や留学生の目線に立って、かれら自身の手によって書かれているところに、本書の最大の特徴があるということである。

このことは、本書に留学生用の日本事情テキスト以上の意味を与えていている。すなわち、本書は現代の日本人学生が日本についてどのように考え、また何を留学生・外国人に発信しようとしているのか、さらに日本に留学してきた海外出身の高校生・大学生が日本の何について知りたがっているのかを率直に示すものとなっているのである。したがって、本書は現代における内外の20歳前後の若者・大学生が日本をどのように捉えているのかを知る上でも恰好のテキストとなっている。

こうしたことから、本書は無論、第一には日本に来て1～2年の留学生が日本事情を知るために手に取ってくれること、第二には大学等で行われている留学生用の日本事情講義のテキストとして用いられることを願って編まれたものであるが、第三には現代の若者の日本観を理解するために広く日本の人々にも読んでいただきたいと願って執筆されたものである。

学生自身の手になるものとはいえ、内容的には厳格に学問的検討を施して書かれたものである。また、独りよがりな記述にならないように、幾度も推敲を重ねており、現段階での最新の日本事情テキスト、若者の日本観を伝える良書であると自負はしている。しかしながら、至らぬ点や筆足らずの点、あるいは特定の見解に偏重している点があるとすれば、それは偏に編者である教員桂島の責任である。大方のご批判とご海容をお願いする次第である。

2005年1月10日

立命館大学文学部日本事情テキスト作成ゼミナール

（4回生学生25名、責任編者＝文学部教授・桂島宣弘）

留学生のための日本事情入門【改訂版】 目次

はじめに

1 覚えておきたい日本語の日常表現	1	
1. 日本語の表記	2. 日本語の漢字	3. 「いいえ」
4. 変化した言葉	5. 本音と建前	6. 短縮句と省略された表現
2 生活事情	6	
1. 住宅	2. 買い物	
3 交通事情	13	
1. 海上交通	2. 空の交通	3. 陸上交通
4. 電子化と交通	5. バリアフリーと交通	6. 介護タクシー
4 留学生のための法律知識	18	
1. アルバイト	2. アパートなどの住宅契約について	
5 日本人の食生活	21	
1. 食生活の変化	2. 食事風景の変化	3. 外食・中食
4. 今、食に求めるもの	5. 日本料理	6. 日本人の食事マナー
7. 日本の菓子		
6 日本の春・夏	29	
1. 春（3月～5月）	2. 夏（6月～8月）	
7 日本の秋・冬	37	
1. 秋（9月～11月）	2. 冬（12月～2月）	
8 京都案内	48	
1. 観光の街	2. 京の町並み	3. 京都の祭りと市
4. 学生の街・京都	5. 情報誌紹介	
9 日本の祭り	53	
1. 昔ながらの祭り	2. 現代の祭り	
10 日本の名所	58	
1. 史跡	2. 自然の名所	
11 日本の芸能	64	
1. 能	2. 歌舞伎	3. 狂言
4. 文楽（人形浄瑠璃）	5. 落語	6. 漫才（万歳）

12 日本の芸道	67
1. 茶道 2. 華道 3. 書道	
4. 武道 5. その他の芸術	
13 日本の大学	72
1. 日本の大学の特徴 2. 日本の大学の種類 3. 日本の大学数	
4. 大学への進学率 5. 大学入試について 6. 大学の制度	
7. 大学の国際化 8. 留学生奨学金制度	
14 大学の四年間	77
1. サークル・クラブ活動 2. ゼミナール・卒業論文 3. 進路決定	
4. 恋愛 5. アルバイト 6. コンパと割り勘	
15 日本の教育	82
1. 日本の学校 2. 教育における社会問題 3. 教育改革	
16 現代日本と世界とのつながり	87
1. 日本と世界のつながり 2. 世界との身近なつながり～食～	
3. ポピュラー文化のつながり 4. 情報通信技術と国際ビジネス	
5. 人のつながり	
17 現代日本の音楽・映画事情	92
1. 音楽事情 2. 映画事情	
18 現代日本の大衆娯楽	96
1. 動物園・水族館・遊園地・テーマパーク 2. スポーツ観戦	
3. ゲーム 4. そのほかの娯楽	
19 現代日本の家族	101
1. 家族形態の変化 2. 結婚・離婚について 3. 定年とその後の人生	
20 現代日本の若者文化	106
1. 若者ことば 2. ファッション 3. 携帯電話・スマートフォン	
21 働く人々の諸問題	112
1. タテ社会 2. 多様化する就業形態 3. 女性の社会進出	
4. 通勤ラッシュアワー 5. 日本の労働の問題点	
22 日本の国土・資源・人口・特產品	116
1. 日本の国土① 2. 日本の国土②	
23 日本の政治と経済	123
1. 明治維新と第二次世界大戦後の改革 2. 日本の政治 3. 日本の経済	
24 憲法と平和問題	128
1. 日本国憲法 2. 平和主義の憲法	

25 日本のあゆみ	132
1. 日本の対外関係史 2. 日本の対外戦争 3. 天皇	
26 宗教	143
1. 民俗信仰 2. 神道 3. 仏教	
4. キリスト教 5. 新宗教 6. 日本人は無宗教か	
27 日本の方言	148
1. 日本の方言	
参考文献・参考 URL一覧（もっと知りたい人のために）	152
おわりに	157
あとがき	159